

Y13b ホームスターを用いたモバイルプラネタリウムの投影

鈴木裕司 (京都大学)

プラネタリウムといえば大型の施設が一般的であるが、移動できる小型のドームを用いたモバイルプラネタリウムもある。投影機の進歩によって、モバイルプラネタリウムにおいても、小型で性能の良い投影機が登場している。しかしながら、多機能の投影機は重量が数十キロあり、価格も高価であることから、ボランティアなどでは導入がしづらい。事実、私の所属する天文ボランティアではピンホール式の投影機を用いており、星像としては物足りない面があった。

その一方で、家庭で手軽にプラネタリウムを体験できる「ホームスター」が発売されている。軽量、安価でありながら天の川を含め6万個の星を投影できる。ホームスター自体は天井に投影する設計であるが、そのレンズを魚眼レンズに交換することによってドームへと星を投影することが可能になる。

このホームスターを用いたモバイルプラネタリウムを大学の総合博物館で行っている。直径5mのエアードームに星を映し、1回の投影は15分程度としている。恒星原板をLEDで照らしているため、惑星は映せず、星の色も白一色であるが、ドームへ入った時に多くの人が星の多さに驚く。原板を交換することで星空を変えることが可能であり、初めに星座の線を出して、その日に見える星空を紹介した後に、星座の線が無い星空の中から、紹介した星座を探すといった投影が可能である。暗闇に目が慣れてくると見える星の数が増えることに気付く方もいる。投影を行って行く中で、簡易な投影機でありながら、十分満足してもらえる投影を行うことができると分かった。

本発表では、このホームスターを用いたモバイルプラネタリウムの投影とその効果について紹介をする。